

〈国語〉

必要な情報を自ら選ぶ力を育む説明的文章の授業づくり ——情報の扱い方に着目した対話的な学びを通して(第2学年)——

名護市立屋部小学校教諭 大 城 直 美

I テーマ設定の理由

児童を取り巻く環境は、たくさんの情報であふれ、スマートフォンやパソコン等の普及により、それらを容易に手にすることができる。急速に情報化が進展する社会において、児童は、あふれる情報の中から、情報の正誤を見極め、自分の目的に合った情報を取捨選択する力が求められている。このような社会背景を受け、『小学校学習指導要領解説国語編』（平成29年告示、以下『国語編』）では、「様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている」と示し、「情報の扱い方に関する事項」が新設された。

平成30年度学力学習状況調査の結果から現任校の課題について考察すると、国語Bについては全国平均正答率を3.3ポイント上回ったが、国語Aについては、3.7ポイント下回り、「文章全体の構成の効果を考える」や「主語と述語との関係」「目的に応じて文章を要約する」「複数の情報を関連づけて理解を深めたりすること」の力が落ち込んでいた。この結果から知識・技能、特に情報の扱い方に関する事項に課題があることが分かった。問題で問われていることがわからず、適切な答えを導けない児童も少なくない。

これまでの実践では、教科書教材で身につけた力をもとに、言語活動の場面において、他の読み物を自らの力で読み取る学習を行ってきた。しかし、教科書教材で学んだことが定着しておらず、活用することができないため、自らの力で読みとるまでには至らなかった。その課題の要因は、教科書教材での学びが教師主導になってしまい、その学びを生かすという目的意識を持たせられなかったことや言葉の理解の押さえが弱く、必要な情報を選ぶ読みにはなっていなかったことが考えられる。また、交流活動について振り返ってみると、交流の目的が曖昧だったため、児童は自分の考えを読み上げるだけの意見交換に終始してしまい、練り合う交流活動までには至っていなかった。

そこで本研究では、知識・技能である情報の扱い方に着目し、それら情報の扱い方に関する項目を「思考力、判断力、表現力」の読むことの説明的文章に組み込んでいくことで必要な情報を自ら選ぶ力を育ていきたい。その際、研究対象が2年生であることから「情報と情報との関係」の指導事項である「共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解」させ、時間的な順序や事柄の順序等、選ぶ手がかりとなる言葉に着目しながら読み進め、段落と段落の関係、文章と文章の関係を捉えられるようにする。また、捉える段階で生まれる気づきや考えのずれを問いとし、子供たちから出た問いを解決するような対話的な学びの場を設定し、必要な情報を自ら選ぶ力の定着を図っていききたい。さらに、必要な情報を選ぶ力が育まれたかが見取れるような言語活動を設定し、単元のゴールや教師の指導の視点を明確にして単元の構想を行う。このような学習活動を行うことで、必要な情報を自ら選ぶ力を育むことができると考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

説明的文章の「読むこと」の学習において、情報の扱い方を組み込んだ単元構想を行い、自らの問いを対話的な学びで解決することによって、必要な情報を自ら選ぶ力を育てることができるだろう。

II 研究内容

1 必要な情報を自ら選ぶ力について

(1) 情報の扱い方とは

表 1 情報と情報との関係 系統表

情報と情報との関係				
思考力、判断力、表現力等を育成する上では、話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要				
	指導事項		留意点	各領域との関係
低学年	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること	共通	・異なるように見えるもの同士にも見方によっては共通する部分を見いだせること ・似ているもの同士のどことどこが似ているのか明らかにすること	A 話・聞 (1) ア、イ B 書 (1) ア、イ C 読 (1) ア
		相違	・似たように見えるもの同士にも見方によっては異なる部分を見いだせること ・異なるもの同士のどこが異なっているのかを明らかにすること	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること C 読 (1) イ
		順序、事柄の	・複数の事柄などが一定の観点に基づいて順序付けられていることを認識すること ・時間、作業手順、重要度、優先度	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。

中央教育審議会答申(平成 28 年告示)の「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である」との指摘を受け、学習指導要領においては「知識及び技能の内容」(2)として「情報の扱い方に関する事項」が新設された。『国語編』では、「話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また自分の持つ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章を適切に表現することにつながる」とし、このような情報の扱い方に関する知識・技能は国語科で育成すべき重要な資質・能力の一つとしている。同事項は、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の 2 本柱で構成されている。本研究対象の 2 学年は、「情報の整理」の指導事項が設定されていないため、「情報と情報との関係系統表」(表 1)を中心に研究を進めていく。

(2) 必要な情報を自ら選ぶ力とは

水戸部修治(2017)は、『情報の扱い方に関する事項』は、言葉による情報のやりとりにあたって、子どもたちに身に付けておくことが必要な知識や技能を位置づけたもの」とし、「色々な情報の中から、自分には何が必要なのかを判断し、選択したり、情報を結びつけて意味を見いだしたりしていくことが必要」と述べている。そこで、「必要な情報を自ら選ぶ力」を「目的に応じて、文章や会話などの中からどんな情報が必要か判断し、複数の情報から取捨選択する力」とする。

以上のことから、本研究では「必要な情報を自ら選ぶ力を育んだ児童」の具体的な姿を以下のように捉え、必要な情報を自ら選ぶ力の育成を目指し、研究を進めていく。

- ① 目的に応じて、言葉や文等の必要な情報を抜き出すことができる児童
- ② 抜き出した言葉や文等の必要な情報を使って、自分の考えを伝えることができる児童

2 情報の扱い方に着目した単元構想について

(1) 「情報と情報との関係」を「読むこと」の単元を通して学ぶ

『国語編』では、『思考力、判断力、表現力等』を育成する上では、話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要」と示している。また、水戸部は「情報の扱い方など、[知識及び技能]の内容は[思考力、判断力、表現力]等、つまり各領域の指導を通して指導することが基本」とし、「子どもたちが自分に必要な情報を理解したり、自分の思いにふさわしい言葉で表現したりするなど、実感が伴った理解を得られるよう指導を工夫することが重要となる」と述べている。以上のことから、単元を構想するうえで、「情報の扱い方に関する事項」を「読むこと」の[思考力、判断力、表現力]と組み合わせて単元を構成する必要がある。そこで、本研究では、読むことの指導事項である「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」と関連させて、共通、相違、事柄の順序などを手がかりに、情報と情報との関係について理解できる言語活動を設定した単元を構想する。

(2) 情報を選ぶ力を育むための螺旋的・反復的な学習過程

水戸部は「国語科で育成を目指す資質・能力の向上を図るためには、資質・能力が働く一連の学習過程をスパイラルに繰り返すとともに、一つ一つの学習活動において資質・能力の育成に応じた言語活動を充実することが重要である」と述べている。これまでの実践の課題である、

教科書教材の読みが自分の読みに活用されないことを解決するには、螺旋的・反復的な学習を取り入れる事が有効だと考える。言語活動の中で同様の学習過程を繰り返すことで、学んだ内容を生かす方法が明確になり、学びの定着につながると考えた。そこで、本研究では、必要な情報を選ぶ力を育むために、教科書教材である「すみれとあり」の学習後、光村出版の「たんぽぽのちえ」を同一教材として扱い、教科書教材での学びを確認する螺旋的・反復的な学習を行う。そして、

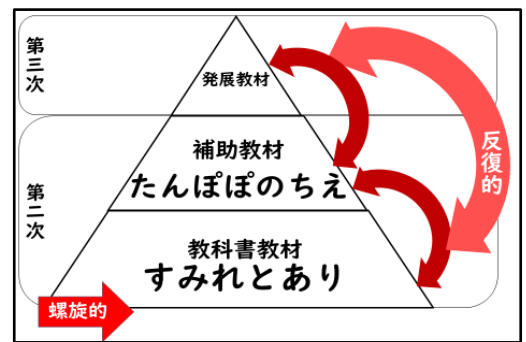


図1 学習過程のイメージ

第3次で自分の選んだ植物の知恵に発展させ情報を選ぶ力が育成されたかを見取る（図1）。

(3) 「情報と情報との関係」を組み込んだ単元構想

中村和弘(2018)は、「授業のねらいを明確にすること。学習する内容を焦点化すること。指導の手立てを具体化すること。」が大切だと述べている。学習を通して、どのような資質・能力を育むかを明らかにすることが最も重要であり、そうすることで学習課題が吟味されると考えた。

そこで本研究では、本時で身に付けさせたい力が何かを考え、ねらいを明確化する。次に、必要な情報を選ぶ力を育むことができるような学習課題を設定し、学習内容を焦点化する。それを解決するための手掛かりとなる言葉を洗い出し、解決の手立てとなるよう視覚化することを意識したワークシート等を作成し、指導を具体化していく。以上を踏まえ、学習課題、身に付けさせたい力、情報を読み取る際の手掛かりとなる言葉、手立てを（4単元の指導計画と評価計画）に組み込み、計画を立てた。

水戸部は、情報を抜き出すための手立てとして「必要な情報が何かをはっきりさせて、それに合致した語や文を重要な語や文として着目して読むことが必要になる」と述べている。そこで本研究では、学習課題を解決する際、情報を選ぶ手順を揭示物（図2）等で示すことで、必要な情報を自ら選ぶ手がかりとする。何が求められているかつかみ、全文を俯瞰したり詳細を読んだりしながら課題解決に向かわせる。またその過程で主述の関係を捉えたり、情報と情報との関係を押さえたりしながら、重要な語や文に気づかせ必要な情報を自ら選ぶ力を育みたい。

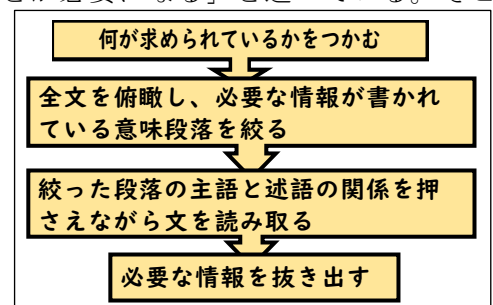


図2 必要な情報を選ぶための手順

3 必要な情報を選ぶ力を育む対話的な学びについて

中教審答申(平成28年告示)では、対話的な学びを「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める」とことと示した。

そこで本研究では、対話的な学びを「言葉を基に、他者と積極的に関わり、協働していくなかで自己の考えを形成していくこと」とする。また、青山由紀(2016)は、対話的な学びが成立する条件として、「学習課題の吟味、視覚化する工夫、コミュニケーション能力の育成」の3つを挙げている。対話したいという必然性や意欲を大切に、対話したことによって自分の問いが解決したという学びにするため、それぞれの条件について考察していく。

(1) 対話的な学びを成立するための「コミュニケーション能力」

コミュニケーション能力は対話する中で育まれる。しかし、研究対象が2年生であることから、対話で生まれるコミュニケーションの前段階として、聴く力を育てておくことが重要だと考えた。

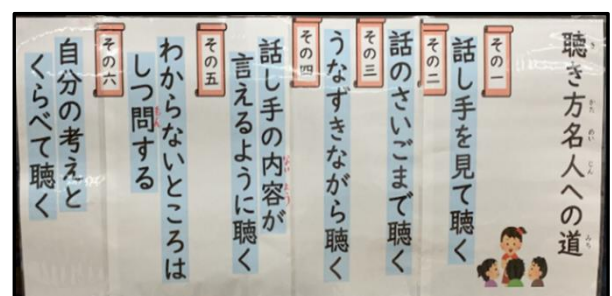


図3 段階的な聴き方

そこで本研究では、青山の示す順番とは変え、

まず、コミュニケーション能力の育成を図り、単元を通してもしっかりとした聴き手を育てることに取り組む。手立てとして、対話を支えるための支持的風土や学習規律を確認する対話についてのオリエンテーションを行い、対話的な学びのイメージを持たせることでコミュニケーション能力を育成する一助とする。聴き方については段階を追った聴き方を具体的に示す（図3）。

(2) 対話的な学びを成立するための「学習課題の吟味」

本県は、「他者と関わりながら、課題の解決に向かい『問い』が生まれる授業」を目指し、授業改善を進めている。それを受け「問いが生まれるサポートガイド」の中で、「子供の『問い』を引き出し、取り組むべき必然性のある課題を設定する」と示している。第2次で、すみれの知恵、たんぽぽの知恵について学ぶ事で、「他の植物にも知恵があるのかな。もっと知りたい。」と新たな問いを生み、それを第3次での他の植物を図書館の本で調べたいという学びにつなげたい。そこで本研究では、前述したように、児童の問いを引き出すような学習課題（4単元の指導計画と評価計画）を設定した。対話する際は、選んだ言葉や文章を使いながら話したり、友だちと自分の考えの共通点や相違点を示しながら伝えたりすることを意識する。

(3) 対話的な学びを成立するための「思考の可視化」

青山は「対話的な学びは、自分と友だちの発言が同じか違うかを比較するところから始まる。そのためには、学習者が比較しやすいように（中略）視覚的効果で学習者の思考を助けるなどの手立てが必要である。」としている。対話の内容は目では見えないので、聞き取り理解することは容易ではない。そこで、ワークシート等を使って視覚化することで、自他の考えを比較したり、自分の考えを修正したり、友だちの考えを付け加えたりしながら対話することを目指す。低学年の児童でも効果的に活用できるワークシートや視覚に訴える教材の工夫を行う。

以上のような理論を基に手立てを考え、本研究テーマに迫るため、検証授業を行う。

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 めざせしょくぶつはかせ！このちえ、すみれと同じちえ！ちがうちえ！

教材名「すみれとあり」（教育出版2年上）

2 単元目標

- ・すみれと自分が選んだ植物の共通、相違など情報と情報との関係について理解することができる。【知・技(2)ア】
- ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、すみれが発芽するための内容の大体を捉えることができる。【思・判・表C読むことア】
- ・すみれや他の植物の知恵を読みとるために、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。【思・判・表C読むことウ】
- ・すみれや他の植物の知恵を読み取り、自分の考えをもつことができる。
【思・判・表C読むことオ】
- ・友だちの発表を聴いたり友だちと対話したりする中で感じたことや分かったことを伝え合うことができる。【思・判・表C読むことカ】
- ・すみれや他の植物の知恵について、興味関心を持って調べ、必要な情報を選びながらまとめることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1 すみれとたんぽぽ、自分の選んだ植物の共通点や相違点に気づいている。(2)	①時間や事柄の順序を押さえ、内容の大体や成長過程を読んでいる。読(ア) ②目的に応じての重要な語や文を選んでいる。読(ウ) ③読み取った植物の知恵をまとめている。読(オ) ④対話で感じたことや分かったことを共有している。読(カ)	⑦聴き方や交流の方法が分かり主体的に話を聴こうとしている ⑧学習内容に興味を持ち、学習を見通することができる。 ⑨自分の考えを3年生に意欲的に伝えようとしている。

4 単元の指導計画と評価計画(全 13 時間)

時間		○学習目標	◎学習課題	情報の扱い方	指導上の留意点 ◇必要な情報を自ら選ぶ為の手がかり ★必要な情報を自ら選ぶ為の手立て	評価規準 めざす子どもの姿①②
第一次	1	○交流についてのオリエンテーションをもつ。	◎交流で大切なことってなあに？		・聴き方名人やスライドで対話の方法について話し合う。	国⑦ ①聴き方名人になるための目標を選ぶことができる。
	2	○単元のゴールを見通し学習計画を立てる。	◎知恵って何だろう？どんな学習をするのだろう？		・植物の知恵を紹介する活動を見通し意欲を高める。	国⑧ ①知恵について自分の考えが持てる。
第二次	3	○教材文の内容の大体を読み、すみれの知恵を抜き出す。	◎すみれの知恵はいくつあるのかな？	理由	・俯瞰した読みができるようにする。 ◇文意識を持つ ◇主語・述語を見付ける ★全文シート	思判表③ ①内容の大体が分かり、すみれの知恵を抜き出すことができる。
	4	○時間や事柄の順序を考えながらすみれの成長過程を読む。	◎すみれはどんな順序で種をとばすかな？	順序	・言葉と写真を照らし合わせながら時や事柄の順序を捉えるようにする。 ◇時や事柄を表す言葉 ◇情報の見つけ方 ★短冊、写真、掲示物	思判表① ①時や事柄を捉え、写真と文で種をとばす順序をまとめることができる。
	5 本時	○文章の中の重要な語や文を考えて、問いの答えを抜き出す。	◎すみれは、どうしてこんな場所に咲いているのかな？	理由	・すみれの発芽とありとの関係を読む ◇意味段落、指示語、主語・述語 ★全文シート	思判表② ①答えが書かれている段落が分かり、重要な語を抜き出すことができる。
	6	○時間や事柄の順序を考えながらたんぼぼの知恵を選び出す。	◎たんぼぼの知恵はいくつあるのかな？	理由	・俯瞰した読みができるようにする。 ◇文意識を持つ ◇主語・述語を見付ける ★全文シート	思判表③ ①内容の大体が分かり、たんぼぼの知恵が抜き出すことができる。
	7	○文章の中の重要な語や文を考えて、問いの答えを抜き出す。	◎たんぼぼは、どうして背伸びをするようにぐんぐん伸びるのかな？	理由	・文章の中の重要な語句や文を考えて答えをまとめるようにする。 ◇重要な語や文を抜き出す ◇形式段落にわかる ★短冊、絵、掲示物	思判表② ①答えが書かれている段落から重要な語を抜き出すことができる。
	8	○すみれとたんぼぼの共通点、相違点について考える。	◎たんぼぼの知恵は、すみれの知恵と同じかな？違うかな？	共通相違	・知恵カードをもとに比較し、くらべっこボードに出し合う。 ◇共通点・相違点に気づく ★くらべっこボード ★くらべっこシート	知技 ① ①②すみれとたんぼぼの知恵を見比べて、共通点・相違点をまとめている。
第三次	9	○時間や事柄の順序を考えながら選んだ植物の知恵を選び出す。	◎自分の選んだ植物にはどんな知恵があるかな？	理由	・俯瞰した読みができるようにする。 ◇文意識を持つ ◇主語・述語を見付ける ★全文シート	思判表③ ①内容の大体が分かり、選んだ植物の知恵が抜き出すことができる。
	10	○文章の中の重要な語や文を考えて、問いの答えを抜き出す。	◎どんな問いがいいかな？どんな答えになるかな？	理由	・文章の中の重要な語句や文を考えて答えをまとめるようにする。 ◇重要な語や文を抜き出す ◇形式段落にわかる ★全文シート	思判表② ①答えが書かれている段落から重要な語を抜き出すことができる。
	11 本時	○すみれと自分の選んだ植物の共通点、相違点について考える。	◎自分の選んだ植物の知恵は、すみれの知恵と同じかな？違うかな？	共通相違	・知恵カードをもとに比較し、くらべっこボードに出し合う。 ◇共通点・相違点に気づく ★くらべっこボード ★くらべっこシート	知技 ① ①②すみれと自分の植物の知恵を見比べて、共通点・相違点をまとめている。
	12	○共通点、相違点を相手に伝えるにはどうすればよいか交流する。	◎どうやったら伝わるのかな？		・話し手は聞き手に伝わるように知恵カードを示しながら話すようにする ◇共通点・相違点に気づく	思判表④ ②共通点・相違点に着目し、自分の考えを伝えることができる。
	13	○単元を通して学んだことを三年生に伝える。	◎3年生に植物の知恵の何をどうやって伝えるのかな？	共通相違	・発表が聴き取りやすいような場の設定を行う。 ◇共通点・相違点を伝える ★ちえカード	国⑨ ②知恵や共通点・相違点等を三年生に伝えることができる。

5 本時の学習

- (1) 目標 すみれと自分の選んだ植物の共通点・相違点について考える。
- (2) 本時の授業の工夫 知恵カードを見比べながら共通点・相違点を見つけ、くらべっこボードに出し合った後で、くらべっこシートにまとめる。
- (3) 展開 (11/13 時間)

	学習活動 (★交流活動)	・指導上の留意点 ①発問 ◇手がかりとする情報と情報との関係	評価項目(方法)
導入 六分	1 単元のゴールを確認する。	・言語活動のゴールに迫るための学習であることを再確認する。 ・共通点、相違点を気づく視点を持つ。	
	2 本時のめあてを立てる。	めあて ①自分の選んだ植物の知恵は、すみれの知恵と同じかな？違うかな？	

展開 三十三分	3 ホップ すみれと選んだ植物の知恵の共通点・相違点を見つかる。★グループ	・比べる際の手順と知恵カードに共通点には赤、相違点には青の線を書くことを確認する ・グループで交流しながら、気づいたことをくらべっこボードに書き出し視覚化していく。 	【知・技】 すみれと自分の選んだ植物の知恵を見比べて共通点・相違点をまとめている。 ① <おおむね満足> すみれと選んだ植物の知恵を見比べて、共通点・相違点が抜き出せる。(くらべっこボード)
	4 ステップ すみれと選んだ植物の知恵の共通点・相違点について話し合う。★グループ1個	◇共通点・相違点に気づく力・ ・くらべっこシートにまとめることで、共通点・相違点を整理する。それを本時のまとめとする。	
	5 ジャンプ すみれと選んだ植物の共通点・相違点をまとめる。	○自分の植物の同じ知恵、違う知恵と比べながら聴いてください。 ・2つのグループの発表を基に、同じ知恵や違う知恵を出し合う。 ・板書にそれぞれの植物の共通点等が比較しやすいようにまとめる。	
まとめ 六分	6 まとめ すみれと5つの植物の知恵のくらべっこを通して気づいたことを話し合う。	・自分の選んだ植物に対するまとめは、くらべっこシートにあるため、ここでは、すみれと5つの植物の共通点に着目させる。 ○すみれと5つの植物をくらべてみよう。同じ知恵はいくつあるかな？ ・5種類の植物に共通する知恵から、植物が仲間を増やすために知恵を働かせていることに気づく。 	<十分満足> すみれと選んだ植物の知恵の共通点・相違点をワークシートにまとめている。(くらべっこシート、まとめ) 
	7 ふりかえり	まとめ すみれと5つの植物の同じ知恵は、 ・仲間を増やすため ・たねでふえること ・他の植物はどうかという問いをもたせることで、図書館の植物の本に興味を持たせる。 ○すみれと5つの植物を比べてみて、どんなことが分かりましたか。 視点 共通点・相違点を見つける中でわかったこと、わからなかったこと(手がかりになった言葉、友だちの考えなど。)	
	8 次時予告		

6 仮説の検証

本研究では、研究仮説に基づき「情報の扱い方を組み込んだ単元構想」や「自らの問いを対話的な学びで解決する授業の工夫」が「必要な情報を抜き出すことができる児童」を育むために有効であったか、授業観察やワークシートの記述、検証授業前後のアンケート調査や単元テストの分析をもとに検証を行っていく。

(1) 情報の扱い方に着目した単元構想について

本研究では、目的に応じて、言葉や文等の必要な情報を抜き出すことができる児童、抜き出した言葉や文等の必要な情報を使って、自分の考えを伝えることができる児童の具体的な姿をめざし、教材文から抜き出させたい情報を表2のように捉えた。教科書教材では捉えた情報の全てを抜き出せたらB評価とし、さらに主語を補って抜き出しているものをA評価とした。発展教材では、抜き出したい情報の数が異なることや教科書教材よりも難易度が上がるため1つでも抜き出せている児童をB評価とし、全ての情報が抜き出せたものをA評価とした。

① 情報を選ぶ力を育むための螺旋的・反復的な学習過程

表2 教材文から抜き出させたい情報

		共通する知恵:仲間を増やす
		①種を飛ばす知恵 ②種を運んでもらう知恵
教科書教材	すみれ	①よく晴れた日に、実は3つにさけてひらく。 ①実の中から種が勢いよく飛び出す。 ②すみれは、ありのすきな白いかたまりを種に付けて、いろいろな場所に運んでもらう。
	たんぽぽ	①花は、しぼんで、黒っぽい色に変わっていく。 ①たんぽぽの花の軸は、ぐったりと地面に倒れてしまう。 ①(花の軸が)、せのびをするように、ぐんぐん伸びていく。 ②よく晴れて風のある日には、わた毛の落下傘はいっぱいにひらいて、遠くまで飛んでいく。 ②湿り気の多い日や雨降りの日には、わた毛の落下傘はすぼんでしまう。
発展教材	オナモミ	①オナモミの背丈は1mくらい伸びる。周りの草の中でも背が高い方。 ②オナモミの実には鋭いとげがたくさんついている。(とげの)先がかぎばりのように曲がっている。 ②たくさんのとげがたくさん糸や毛とからまるので、簡単には落ちない。 ②オナモミの実には水に強く浮かびやすいのでどこかのきしにたどり着けば芽を出すことができる ②枯れたあととたくさんの実をつけたまま、まっすぐに立っている。
	サクラ	①(サクラは)春暖かくなったらなるべく早く一斉に花を咲かせて虫たちを呼び寄せる。 ②美味しい実を食べた鳥や獣たちの糞とともに地面に落ちて種は遠くに広がる。
	ンボク	①果実は楕円形で、5枚の果皮が張り合わさってできている。 ①(果実は)パネじかけのように内側に巻き込み、その動きで種を飛ばす。 ①(果実は)人やどうぶつが触れてもはじける。
	グリン	①実の中には白いものがつまっている。 ②動物たちが大好きな白い栄養分を付けて動物たちに運んでもらう。
	モミジ	②モミジの実には風にあおられて枝を離れ、くるくる回りながら飛ばされる。 ②(実は)落ちるとき翼のように風を受け種を中心にくるくる回る。 ②2つくっついてた実は、飛ばされるとき1つずつに分かれる。

本単元は、共通、相違、事柄の順序などを手がかりに、情報と情報との関係について理解できる言語活動を設定し、3つの教材を通して、以下の学習活動を反復的に学習した(表3)。実際に授業を行う際に、情報と情報との関係の指導事項を身に付けるために、情報を抜き出す手順や手がかりとなる言葉を意識して授業を構成した。すみれの知恵を抜き出す授業(第3時)では、まず、何を問われているのかを確認した。児童は、すみれの知恵を抜き出すということは、すみれが工夫したことを見つければいいことに気づいた。そして、知恵はすみれのしたことの中にあり、すみれがしたことを見つけて読めばいいことに気づくことができた。次に、すみれのしたことを見つけるためには何を手がかりにしたらいいかを考えた。そこで、児童は主語に着目し、「すみれが」等、主語がすみれになっているものを探して一文ごとに読みとっていった。最後に、工夫していることはどれかを判断し、文を抜き出した。この過程(表4)で、知識・技能である主語や述語の確認や意味段落にわたる学習を行うことができ、すみれの知恵を探す学習を通して、知識・技能を思考・判断・表現の内容と組み合わせる学習を進めることができた。

各植物の知恵として、児童に抜き出させたい情報(表2)を見つけることができた(B評価)児童数は表5のような結果となった。二つ目の教材であるたんぼぼの知恵を抜き出すことができた児童は14名とあまり伸びず、児童の自己評価でも理解したと答えた児童がすみれに比べて下がった。要因としては、教材文の読み取りの浅さが考えられる。教材を配布したのが授業の2日前になってしまったことや授業内容を焦点化し、たんぼぼの知恵の第1時で知恵を抜き出したため、内容理解ができていない児童も多くいたことが影響している。しかし、児童の振り返りの中には、すみれの知恵を見つけるときと同じ方法だったことに気づくことができた児童が11名いたことや対話(音源資料より)の中でも「すみれの時はこうやって見つけていたよね」と話していることから、反復することで課題を解決する方法を意識させることはできたと考える。また、自力では解決方法がわからなかった児童も、対話を通して解き方の視点を学び、理解に役立てていく様子が見えてきた。そのため、第3次での発展教材は、教科書教材に比べ難易度が高かったが、児童は意欲的にグループで対話する様子が見られた。その結果、知恵を抜き出すことができた児童の数もたんぼぼの知恵に比べて9名増えた。授業後のアンケートでも、自分で選んだ植物の学習が一番分かりやすかったと答えている。たんぼぼの知恵での学習内容が十分に理解できなかった13名も、自分の選んだ植物の知恵を見つける際に、グループで協力しながら教材文を読み、対話しながら螺旋的・反復的な学習を行うことで、第2次の学び直しができたと考える。

第3次で扱った発展教材は、教科書教材に比べ、難易度が高かったため、すみれやたんぼぼとは違い、知恵を抜き出す視点を教師が提示したワークシートを作成した(図4)。そうすることで、児童は目的に応じて知恵を見つけることができていた。しかし、児童の見つけた

表3 螺旋的・反復的な学習を組み込んだ学習

時	学習活動
1	聞き方オリエンテーションをする。
2	学しゅうのみとおしをもつ。
3	すみれのちえを見つこう。
4	何のためのちえなのかを考えよう。
5	「すみれとあり」の問いの答えを見つこう。
6	たんぼぼのちえを見つこう。
7	「たんぼぼのちえ」の問いの答えを見つこう。
8	すみれとたんぼぼのちえを比べよう。
9	自分のえらんだしよくぶつちえをみつこう。
10	すみれとたんぼぼのちえを比べよう。
11	「すみれとあり」の問いの答えを見つこう。
12	ちえカードをしようかいする方ほうを考えよう。
13	三年生にしよくぶつちえをしようかいしよう。

の出口
まとも三年生につたえよう

共通・相違 問い 知恵

表4 情報を選ぶ手順

- ①何を訊かれているのかを確認する。
・すみれの知恵＝すみれのしたこと
- ②すみれがしたことを見つけるための手がかりを考える。
・主語がすみれに関すること
- ③全部の文の中からすみれがしたことが書かれているまともを見つける。
- ④すみれが工夫したことか吟味する。

表5 知恵を抜き出す学習の評価について(N=27)

	B評価 (名)	自己評価で理解したと答えた数(名)
すみれの知恵	12	23
たんぼぼの知恵	14	21
自分の植物の知恵	23	24

知恵が、その目的に合わないこともあり、苦戦しているグループも見られた。ワークシートは児童の実態に合わせて選択できるようにする等の改善点が見つかった。

② 単元テストの結果による検証

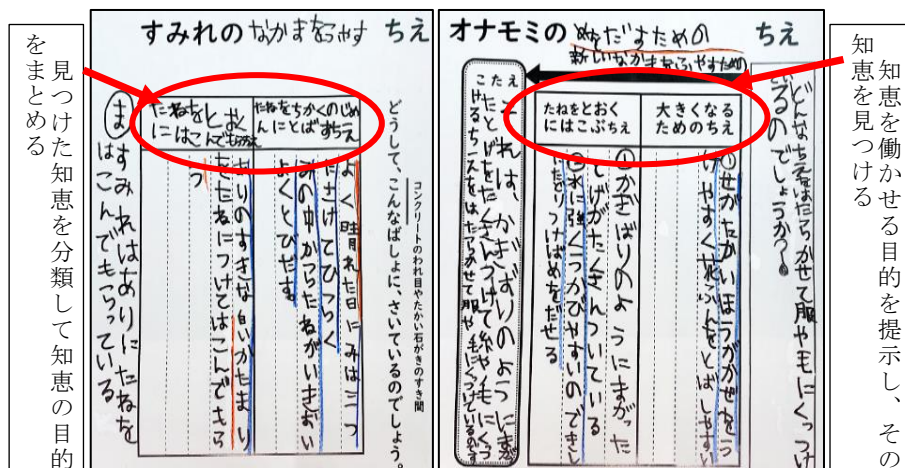


図4 ワークシート 焦点化の工夫

単元テストでは、順序などを手がかりに比較的容易に情報を取り出す問題はできていたが、理由を読み取ったり、主題について答えたりする問題は正答率が低かった(図5)。要因としては、主語を「すみれは」で問われているのに、「ありは」で答えてしまったことから、主語・述語の理解が十分ではないと考えられる。必要な情報を抜き出すためには、知識(主語・述語)の部分をしっかり組み込んだ授業を行うことが大切である。

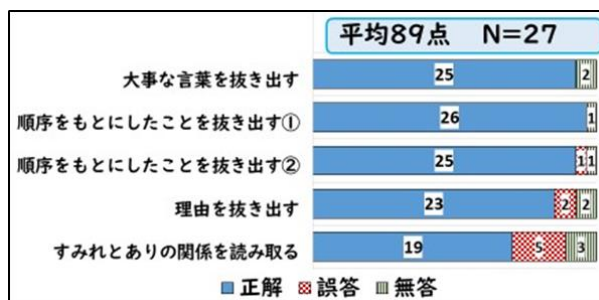


図5 単元テストの結果

以上のことから、必要な情報を自ら選ぶ児童を育むために螺旋的・反復的な学習を取り入れた単元構想は有効だと考える。螺旋的・反復的な学習を通して、学習方法や解決の手順を意識したり、手がかりとなる言葉に着目させ、情報を抜き出すことを繰り返したりすることで、螺旋的に情報を選ぶ力を育めたと考える。今後も情報の扱い方を各領域の指導で意識的に組み込み、知識・技能の定着を図りながら、必要な情報を自ら選ぶ力を育てていきたい。

(2) 自らの問い「他の植物にも知恵があるのかな」を対話的な学びで解決する授業の工夫

① 対話的な学びを成立するための「コミュニケーション能力」

オリエンテーションで、聴き方についてしっかりと時間をとって確認した。なぜ、話し手を見て聴くのか、最後まで聴くことの大切さなど具体例を挙げながら話し合った。また、オリエンテーションの中で、めざすペア対話の様子を動画で見せた。その結果、観察を通して授業の中の対話がスムーズに行う姿が見られた。

授業の中の対話の場面では、常に「聴き方名人」を意識するよう声かけをした。児童も対話を楽しむ姿が見られるようになり、教材文やワークシートを指さしながら頭を寄せて対話することができた。対話することを通して、コミュニケーション能力の向上が図られている様子が見られたことから、今後も年間を通して継続して取り組んでいきたい。

② 対話的な学びを成立するための「学習課題」

情報の扱い方を意識した学習課題が、対話的な学びを成立するために有効であったかについて、第3、6、9時「知恵を抜き出す学習」、第8、11時「知恵を比べる学習」、第13時「3年生との交流学習」の対話の様子から検証する。「知恵がいくつあるのか」という課題に向けて、どの教材の際も、児童は教材文をもとに対話していた(表6)。教材を俯瞰した読みを行い解決する課題であること、「知恵はいくつあった。」と回答しやすい課題であることから対話が生まれやすかった。すみれの知恵、たんぼぼの知恵と進むにつれて、対話する内容がより叙述に即したものとなり、話す回数も多くなっている。ただ、自分がそう考えた理由を伝えて、話し合う様子は音源資料ではほとんど確認できなかった。今後は、自分が考えた

③ 今、三年生の前ですみれとさくらのちがうでえやおなじえきは、ぴがうでえやおなじえしかたです。三年生がしすかにきいてくれたので、よかたです。

④ 三年生に、きいてもらっておもしろてくれおすみれとおりのおペンきょうをいして、こくごっておもしういなどおもいました。

把握していること、そして、対話を深めるためのツールの工夫が不可欠である。このような対話を行うことで、自ら必要な情報を選ぶ力を育むことができたと考える。ただ、今回はペアやグループでの活動が中心だったので、個々の児童の力を高めていくことが課題としてあげられる。今後も継続して研究を進めていきたい。

③ 対話的な学びを成立するための「思考の可視化」

対話的な学びを成立させるためグループ対話で活用したくらべっこボード（写真2）は、比較したことを出し合うための教具である。児童は、ゲーム感覚で共通点や相違点を見つけられて

いた。互いの考えを書き出し、思考を可視化することでその内容について話し合い、考えをまとめたり深めたりしながら、全グループで比較した知恵を抜き出すことができた。対話的な学びを成立させるためには、話し合う内容を焦点化し、児童がそれを把握していることが絶対条件である。その上で、互いの考えを視覚化するワークシートを活用することで、話し合っている内容を理解し、自分の考えを持てることがわかった。低学年でも思考ツール

を活用し思考を可視化することで考える視点を与え、考えをサポートすることができる。以上のことから対話的な学びを成立させるためにワークシートの活用は有効だといえる。論理的思考力を育むためにも効果的な思考ツールの活用を進めていきたい。また、これまで対話の際は、考えを出し合うために自分の考えが書いてあるワークシートを活用してきたが、対話用のワークシートを用意し、それに自分たちの考えを書き込みながら対話することでも思考が整理され対話が深まると考えられる。対話の足跡を残すためにも有効だと考える。

みんなきんちようして、いって、ちゃんとして、すみれは、ありにはこぼれていて、ドングリはリスにはこぼれているけど、オナモミは人間にはこぼれることがわかった。ぼくはもみじはなににこぼされるのかきになつて、いって、風にとばされるのがわかった。



写真1 交流の様子

わたしは、いろいろなものがすみれにいて、たねはこんでもらって花がさくんだ！と思いました。二年生なのはつびょうも、とても上手でわかりやすかったです。わたしはもう一つわかったことがあります。すみれとさくらのちがうところはさくらはとりやけものたねをはこんでもらい、すみれはありなどにたねをいもいろんなのはつびょうでわかったことがたくさんありました。ほかにもたくさん調べてみたいです。はつびょうも聞きやすかったです。が、んばつたことがつたわりました。

写真2 三年生の感想

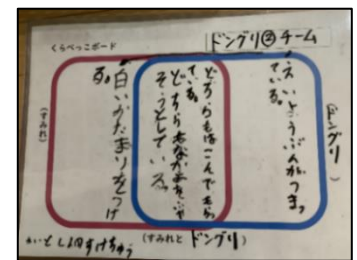


写真2 くらべっこボード

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 情報の扱い方を組み込んだ単元構想を行い、目的に応じて手がかりとなる視点(共通点や相違点)や重要な語(主語・述語)に着目しながら、焦点化した学習内容を繰り返すことによって、児童が学習方法を理解し、必要な情報を自ら選んで抜き出すことのできる児童を育むことができた。
- (2) 他の植物も知りたいという自らの問いをペアやグループでの対話を通して、協働しながら解決することで、三年生との交流場面で必要な情報を使って、自分の考えを伝える児童を育むことができた。
- (3) 知識・技能の内容を読むことの学習に組み込んだ単元を構想したことで、知識・技能の内容を思考・判断・表現を組み合わせる重要性を再認識した。

2 課題

- (1) 一つ加えた補助教材の内容の理解が浅い児童が多かった。加えた補助教材の取り扱い方を工夫することで螺旋的・反復的な学習の有効性をより高めていきたい。
- (2) 必要な情報を選ぶ力を育む対話的な学びの充実のために、対話する内容をより焦点化し、対話に活用するツールやワークシートのさらなる工夫に努める。
- (3) 必要な情報を抜き出すための手がかりとして、主語や述語等の知識・技能の定着を図ることで、必要な情報を自ら選ぶことができる児童の育成をめざす。今後の継続課題としていきたい。

〈参考文献〉

- 文部科学省 2019 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説国語編
- 青木伸生 2018 『フレームリーディングで説明文の授業作り』明治図書出版
- 伊崎一夫 2018 『見方・考え方を鍛える小学校国語科の思考スキル』東洋館出版社
- 中村和弘 2018 『見方・考え方国語編』東洋館出版社
- 細川太輔 2018 『小学校国語科学び合いの授業で使える！「思考の可視化ツール」』 明治図書出版
- 水戸部修治 2018 『小学校 新学習指導要領 国語の授業づくり』 明治図書出版
- 水戸部修治 2018 『新学習指導要領&3 観点評価対応小学校国語科質の高い言語活動パーフェクトガイド1・2年』
明治図書出版
- 水戸部修治 2018 『実践国語研究 2018 年 10/11 月号』明治図書出版
- 吉田裕久・水戸部修治 2017 『小学校新学習指導要領 ポイント総整理国語』東洋館出版社
- 山本茂喜 2017 『思考ツールで国語の「深い学び」』東洋館出版社
- 青木伸生 2016 『ゼロから学べる小学校国語科授業づくり』明治図書出版
- 青山由紀 2016 『子どもと創る国語の授業 2016No. 53』東洋館出版社
- 樺山敏郎 2016 『小学校国語アクティブ・ラーニング型授業スタートブック』明治図書出版

〈参考 web サイト〉

- 中央教育審議会 2016 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な
方策等について（答申）」（2019 年 7 月最終アクセス）
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf
- 『「情報の扱い方に関する事項」小学校国語科の授業づくりサポートブック』（2019 年 6 月最終アクセス）
- <http://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1550017197832/index.html>